

政務活動費 視察・研修会等 報告書

日 時 1月25日(水) 10:00~11:00

場 所 京都市北区紫野花ノ坊町 11

参加者 佐藤 光好

項 目 『視覚障害者総合福祉施設』

社会福祉法人 京都ライトハウス 視 察

昨日夕方から降り出した雪は幸いにして小降りになっていた。少々時間が早かったのですが施設見学を早めて頂きました。京都ライトハウスは、「京都に盲学生のための図書館を」という視覚障害者の願いを受け、1961年(昭和36年)に創立されました。視覚障害者協会や盲学校が中心となって「愛の鉛筆運動」を行い1951年から10年がかりで資金を集めたほか、故・鳥居篤治郎氏が土地を提供することなどで成し遂げられました。

創立から7年後に現在地に移転し、新たな事業を加えつつ視覚障害者の総合施設として発展してきました。21世紀を迎え、情報化社会の進展、障害の重度化、ニーズの多様化に応えるため、2004年に改築、視覚障害者に対する情報・福祉サービスを中心としつつ、視覚障害者以外の障害者も対象とした事業展開を図り、障害者の総合施設として全国でも注目されています。

ライトハウスは海なき灯台として視覚障害者に光を放つ施設です。皆様のお力を借りてさらに光を高く掲げ・遠くまで届けたいと考えています。と話していました。大阪のライトハウスを想像していましたが更に大きいのでたまげました。5階建ての建物から旧館別館へと続き障害者支援施設になっていました。

障害者支援施設は、視覚障害者を対象とする自立訓練(機能訓練)のための施設です。移動・文字の読み書き・身辺管理などの視覚障害者ゆえの不自由さを改善し、社会復帰を支援しています。

(自立支援の施設)1階は事務所・生活介護事業所「らくらく」では難病のある18歳以上の方の日中活動を支援する場です。安心して楽しく生活できるようにサポートしています。

展示コーナーは視覚障害者の補装具や日常生活用具である白杖や点字盤をは

じめ、ロービジョンの方や一般の方でも使える便利グッズなどを販売しています。その他、眼科相談室・軽食カフェ（きらきら）・老人クラブハウスなどです。

2階は児童発達支援事業・放課後等デイサービス視覚支援「あいあい教室」親子教室です。見えない・見えにくいことに関する様々な相談を受けています。

3階は情報ステーション・情報制作センター・点字図書館の心臓部になります。点字の図書、印刷物・教科書の製作や、公報の録音盤の制作、点字案内板等の監修を行っています。また、オリジナル事業も行っています。視覚障害者への図書の貸出サービスはもとより点字・録音図書の制作、個人資料の点訳音訳、読み書きサービスなど先駆的で特色ある事業を展開して多くの方に「光」を届けるサービスを目指しています。4階はSF トモニーです。障害のある18歳以上の方の就労移行支援、就労継続を支援する部屋、希望に沿った作業内容を相談して決定します。生活を豊かにすることを重視し健康管理やリクリエーションなどに取り組んでいます。素晴らしいことです。京都ライトハウスはおもに国や自治体の各種助成金で運営されていますが、決して十分でなく寄付や後援会からの支援で成り立っていますが支援がなければ運営できないものです。

【所感】

京都ライトハウス情報制作センターの視察は、是非とも見学しておきたいと思っていました。朗読奉仕会に平成元年に入会して以来、機会があるたびに、代表的な施設見学をしています。今までに東京の日本点字図書館、横浜ライトハウス、大阪ライトハウス、そしてこの度、京都ライトハウス情報制作センターに視察が出来てとても有り難いと思っております。

朗読奉仕会と桐生の点字図書館は、全国においても優秀な施設です。群馬県には、県点字図書館と桐生にしかありません。歴史は古く織物の町桐生には、業として按摩さん（マッサージ師）が大勢いました。なぜかと言うと機織りの仕事の後、疲れを直すのにマッサージにかかる人が多く、職業とする按摩さんといわれる人が多かったのです。その結果、視力障害者の人たちのために点訳音訳奉仕会が生まれてきました。

私は、会話能力を高めるためにNHKの朗読講座に何度となく通ったこともありました。成果が上がったかは分かりませんが、ボランティア活動（広報活動）はいまだに楽しみの一つで続いています。京都ライトハウス情報制作センターは、障害者支援施設も兼ね備えている私設経営をしています。凄いです立派としか言えません。見学の中で障害者の人たちとすれ違いましたが、皆さん生き生きとしていました。ほっとしました。カード入れを買いました大事に使おうと思います。案内してくださった職員さん、一生懸命説明して下さいました。